



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第34号)

2005年10月13日発行

HCJBアジア大洋州局長

アダムス夫妻の日本とびあるき1週間

9月18日、背広姿で成田空港に降り立った私たちを迎えてくれた鹿島聖書教会の飯田勝利牧師は半袖姿だった。彼の両親は40年来の「アンデスの声」の忠実な支援者だ。そのことをアダムス夫妻に紹介して挨拶を交わしたあと新宿に直行。時差ボケでふらふらしながら青山学院大学院に井田教授をたずねる。オーストラリアから帰ってきたばかりで、最近は東南アジア諸国への出張が多い。とはいっても、HCJBのためには今後も協力してくださるという約束をいただいた。午後には淀橋教会の峯野主管牧師と会って、日本語放送再開の報告とHCJBワールドオフィスの設置について打ち合わせ。11月には正式決定する見通しとなった。

アダムス夫妻を私の古巣太平洋放送協会(PBA)へ案内したところ、榎原牧師、酒井TVディレクター、「世の光」を録音中だった村上牧師と四本アナもみんなスタジオから飛び出してわいわいがやがや。その後ワーナー日本支社で小川政弘氏と面会。同氏はワーナー映画の輸入選択からスーパー字幕の翻訳監修までの重責を負うかたわら、実話シリーズ「解放された人生」のラジオドラマ制作にあたっている。日本料理をご馳走になり、このドラマのオーストラリアからの放送を約束して別れた。NHKではアダムス夫妻ともども大型ドラマ「義経」のスタジオへ案内された。カメラ、ライト、大道具、小道具、衣装、数々のスタッフが右往左往する中での撮影のくり返し。「良かったね。われわれはラジオで」とアダムスさんと顔をあわせてうなづく。国際放送局の春原企画編成部長との面談ではHCJB日本語放送への協力を感謝して相互の連携を深めた。

大阪でのHCJBリスナーズの集いは「太閤園」での昼食会。世話役の日本ミッショナリーザー夫妻と高原牧師夫妻が、食べ放題のランチを出席者全員にサービス。お腹もいっぱい、おしゃべりもたっぷりで楽しい会合となった。とくにキム画伯が持参した特別揮毫「日本語放送再開記念」色紙をみんなが受け取っておおよろこび。全50枚が日本全国のリスナーに手渡されることになっている。

白衣観音で知られる群馬県高崎は、アダムス夫妻が35年前にオーストラリア人宣教師と2年間過ごした思い出の地。駅のレストランで長年のリスナー鈴木義一さんと昼食をすませ、タクシーで町中を徘徊。しかしその頃をしのぶ建物はどこにも見当たらずがっかり。ところが、その夜泊まった元PBA総支配人のシーリー師が近くのオーストラリア人伝道者を紹介したところ、まぎれもなく当時高崎で大学生だった本人とわかり、アダムス夫妻との感激の対面となった。翌日はアダムス夫妻は長野観光、私は以前香港で放送をきいていた斎藤弘一さんを故郷松本の自宅にたずねてインタビュー、思いがけない貴重な出会いの旅となった。

東京でのHCJBリスナーの集いは淀橋教会の会議室。関東地区から大武さん、山田さん、須藤さん、細谷さん、丹野さん、宮嶋さん、林さん、横浜からの齊藤さん、笹川さん、新潟から金子さん、沼津の白川さん、名古屋の細川さん、岐阜からも田中さんが出席。アダムス氏自身によるHCJBオーストラリアの現況、アジア大洋州の活動内容などの説明があり、そのあと日本語放送再開については質疑応答で忌憚のない意見交換をおこなって、最後に記念撮影をして散会。昔なじみの和気あいあいとした雰囲気のなかでアダムス夫妻もうちとけた感じで終始楽しんでいる様子だった。



9月26日、うだるような残暑。アダムス夫妻を乗せたジェット機は成田上空の朝焼け雲を突抜けて南東へと姿を消した。

数日後、アダムス夫妻はメールで日本滞在の印象をつぎのように書いてきた。

「今回の訪日で、HCJB日本語放送を聴いているリスナーの実在とその熱心さにふれることで、日本のリスナーを再認識させられた。とくに単なる短波愛好家以上に社会に貢献し活躍している堅実なインテリ層が、日本語放送に耳を傾けてくれている方達であることがうれしい驚きだった。これらの人たちに信頼されている放送として、これからも愛する日本のリスナーへHCJBはそれ相応の誠意を尽くさなければならないと思っている。」

アダムス夫妻の滞在は短期間だったとはいえ、日本の短波愛好家のどっしりとした存在と熱い想いが印象として強く残ったことだけは間違いないようである。

HCJB日本語放送担当

在住 尾崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://japanese.hcjb.org/forums/)」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
